研究部だより

令和５年
９月 15 日(金)発行
第３号
文責：池田

残暑が厳しい８月も終わり、９月になりました。少しずつ過ごしやすい気温になり、研修もはかどる季節になってきました。

研究部だより第３号では、高等部の授業実践と、令和５年７月３１日に行われた第 45 回北海道特別支援教育研究協議会道南地区大会（北斗大会） 兼全道研修会兼北海道北斗高等支援学校夏季研修について掲載しました。日々の授業つくり等で役立てる情報があれば幸いです。

ICT を活用した授業実践③高等部

高等部１年　日常生活の指導

授業者

中村、櫛田

対象生徒の様子

・嫌なことがあるときは、大きな声を出したり、自分の頭を叩いたりして自分の気持ちを表現する。
・食べ物をあまり噛まずに飲み込んでしまうので、給食の時は食べ物を小分けにして、皿に盛っている。おかわりをしたいときは、皿を叩いたり、押し出したりして、おかわりしたい気持ちを表現していた。

ICT 活用の意図

・適切な方法で「おかわりしたい」という気持ちを表現する。
・どんな相手に対しても分かりやすいコミュニケーション手段を獲得する。
・コミュニケーションの幅を広げる。

活用したアプリ

・DropTalk

DropTalk は、ドロップレット・プロジェクトが開発した VOCA アプリです。今回の実践では、VOCA 機能しか使っていませんが、タイマー機能とスケジュール機能もあります。

ICT 活用の成果

１学期

・絵カードを使っておかわりしたい気持ちを表現する学習をした。
・指導体制は図１のとおり。小分けした食べ物を食べ終えたときに、教師２が生徒に身体接触し、机の上にあるカードを教師１に渡すように促す。
・回数を重ねると、カードを渡すとおかわりできるという因果関係を理解し、自分から教師１にカードを渡すことができた。

２学期

- 夏休みの療育キャンプでタブレットを自由自在に使えることが分かり、絵カードからアプリを使った VOCA(音声出力会話補助装置)に切り替える。
- ２回程度の指導で自分から「おかわりボタン」を押し、おかわりしたい気持ちを伝えることができた。
- これからは２つの選択肢を使い分けることを目標に指導する。（「おかわり」と「もういらない」）

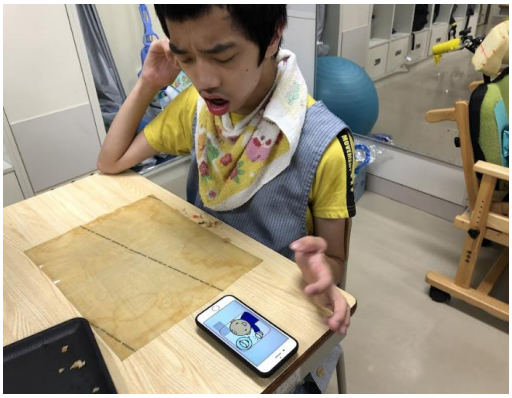
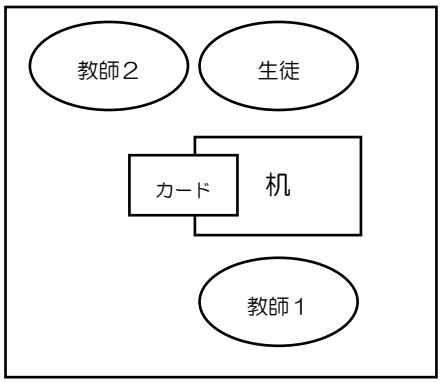


図１



教師１がボタンを押すように促すと、その支援に依存してしまう可能性があるため、支援体制に余裕があるときは、教師２が入り、支援しています。

第 45 回北海道特別支援教育研究協議会道南地区大会（北斗大会）
兼全道研修会兼北海道北斗高等支援学校夏季研修

高辻

研修促進費を使わせてもらい、7 月 31 日に参加してきました。集合しての研修は久しぶりの感じがします。とても暑かったです。

全体講演

「適応という観点からみた不登校の理解と対応」
北海道教育大学　平野直己教授

講師の先生は、特別支援教育が専門ではないようですが、興味のあるお話を聞くことができました。以下にキーワードをあげます。

・「よい対応は、よい理解に基づく。」
・「転んだ石を探してもうまくいかない。上手に立ち上がれる練習をする。」
　原因を求める傾向が強いが、原因探しよりもどのように対応していくかに視点を置く。
・「再登校ではなく、社会的自立が目標」
　頼れる大人を増やしていく。たくさんの人に知ってもらい自立できるようにする。
　学びと勉強の両方を止めない。学びは続ける。
・「根気強さとユーモアが大切」
　行動上の問題への対応など特別支援教育だと原因を探ることが多いですが、違った視点でのアプローチが必要だということが分かりました。

部会「校内研究部会」

３つの学校の発表がありました。

①　北海道室蘭養護学校「ＩＣＴを活用した効果的な学習活動の充実を目指して」

・駒澤先生が分かりやすく発表している姿がすてきでした。
・iPad 使用についてのルールがあるかどうか質問がありました。

②　北斗高等支援学校「実態把握と情報の共有～Vineland-Ⅱを使用した校内研修～」

・適応に関するアセスメントの情報を、①授業に活かすこと、②地域との連携・協働に活用（現場実習での連携に活用）する発表でした。
・②の地域との連携について、実習先との共有について課題もあり、取り組みを継続中とのことでした。客観的な実態把握により同じ物差しで生徒を語れ、指導に活かせることがよいなと感じました。また、子どもを捉える専門性を高めることにもつながっていると感じました。

③　北海道教育大学附属特別支援学校「校内研究について」

・研究主題「児童生徒一人一人の自己実現を目指した授業実践に関する研究」
　幸福やウェルビーイングの視点を基に、児童生徒本人の願いから出発した授業実践の取り組み。
・高等部の実践事例「一学期報告会」
　単元ごとにつけていた「五感日記」をもとに、原案ポスターの作成や発表方法を考えること、発表の練習・改善していく単元の実践でした。

各校のオリジナリティのある校内研究の取り組みを知ることができて大変参考になりました。五感日記は取り組みたいと思いました。刺激をもらい２学期からもがんばりたいという気持ちになりました。